

学会記事

2024年度第1回 理事会議事録

日時：2024年6月8日（土）15:30より
【WEB会議形式】

出席：出席理事39名，出席監事2名
・理事39名：青矢睦月・天野一男・磯崎行雄・岩井雅夫・保坂（内尾）優子・内野隆之・大坪 誠・大友幸子・岡田 誠・尾上哲治・加藤猛士・香取拓馬・野口（神谷）奈々・亀高正男・小松原純子・小宮 剛・齋藤 眞・坂口有人・沢田 健・沢田輝・下岡和也・杉田律子・高嶋礼詩・田村嘉之・中澤 努・西 弘嗣・野田 篤・広瀬 亘・星 博幸・細矢卓志・松田達生・松田博貴・道林克禎・矢鳥道子・矢部 淳・山口飛鳥・山路 敦・山本啓司・和田 稷隆
・監事1名：岩部良子
・事務局1名：澤木寿子
欠席役員：理事（11名）：笠間友博・加藤 潔・金丸龍夫・川村紀子・清川昌一・桑野太輔・佐々木和彦・澤 燦道・菅沼悠介・高野 修・辻森 樹，監事：山本正司
・成立要件：理事総数50名の過半数26名本日の出席者39名で本理事会は成立。
・議決：出席者の過半数20名

審議事項

1. 理事会議長・副議長の選出
亀高理事より，議長として高野 修理事，副議長として野田 篤理事が推薦され承認された。
2. 会長＝代表理事，副会長の選出
会員による意向投票の結果を鑑みて，下記の会長及び副会長が選出された。
会長（＝代表理事）：山路 敦，副会長：杉田 律子，星 博幸

なお，杉田副会長より，会長代行の順位について説明，提案があった。理事会規則第3条第4項に定める通り，理事会においては会長に事故があった場合に備え，継承順位を定めることとなっている。年長の副会長が優先されることとなっているが，該当する杉田副会長は国家公務員であり，法人の代表権を有する会長に就任することは困難と考えられる。よって，理事会において，今期の第一の継承順位は星副会長にあると定めた。本件について賛成多数で承認された。

この後，山路新会長から，引き続き若手を応援することはもちろん，シニア会員の活躍の場を広げ，会員各層が参加し，活躍できる場を提供したいとの展望と挨拶があった。続いて星副会長からは，会長を支え学会の健全な発展に引き続き尽力するとともに，学会の柱は学術であるため学会誌の発展，学術大会の安定した開催，会員相互の研究連携などに力を入れるとの挨拶があった。杉田副会長か

らは，組織や規則の整備を中心とした学会の基盤固めに注力したいとの挨拶があった。

3. 執行理事の選出，部会長の選出
山路会長より，新執行理事と所属事業部会の提案があった。審議の結果，原案通り選出された。

常務理事：亀高正男，副常務理事：内野隆之（社会貢献部会兼務）
運営財政部会：加藤猛士*・細矢卓志
広報部会：坂口有人*（社会貢献部会兼務）
松田達生・内尾優子・大坪 誠（社会貢献部会兼務）
学術研究部会：辻森 樹*（編集出版部会兼務）
尾上哲治・高嶋礼詩・山口飛鳥
編集出版部会：小宮 剛*
社会貢献部会：矢部 淳*・岩井雅夫（*印は部会長）

4. 新年度各種委員会委員の承認
亀高常務より，学会各種委員会メンバー案について説明があり，賛成多数で承認された。

報告事項

1. 行事関係（学術大会）
高嶋行事委員長より，山形大会の準備状況と2025年熊本大会（2025年9月14日～16日）の状況が報告された。熊本大会は巡検9コースを予定している。

星副会長より，学術大会講演申込の締め切りについて，6月締め切りのスケジュールは早すぎる印象があり，JpGUの日程とも近く対応する会員の負担が大きいため，今後大会開催日程（9月下旬開催が好ましい）も含めて十分検討してもらいたい旨の意見があった。

2. その他
・星副会長，下岡理事より，若手活動運営委員会が企画する若手巡検の状況の紹介があった。今年は10月に愛知県犬山近郊のコースを計画している。整いつ次第，広報と参加申込受付を開始する予定。

監事コメント

（岩部監事）新執行理事会，各種委員会メンバーが承認され，新しい体制がスタートした。積極的，建設的な議論を深め，学会運営を進めていただきたい。

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長，副議長及び出席監事，理事は次に記名・捺印する。

2024年6月8日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長：高野 修
理事会副議長：野田 篤
前任代表理事：岡田 誠
代表理事：山路 敦
監事：岩部良子
理事：出席理事名（省略）

2024年度 第2回理事会議事録

日時：2024年8月31日（土）14:00-16:00
【WEB会議形式】

出席役員：出席理事41名，出席監事2名
会長1名：山路 敦
副会長2名：杉田律子・星 博幸
常務理事1名：亀高正男
副常務理事1名：内野隆之
執行理事12名：岩井雅夫・保坂（内尾）優子・大坪 誠・加藤猛士・小宮 剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・細矢卓志・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
理事会議長1名：高野 修
理事会副議長1名：野田 篤
理事22名（議長・副議長を除く）：青矢睦月・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・岡田 誠・加藤 潔・香取拓馬・川村紀子・清川昌一・桑野太輔・小松原純子・齋藤 眞・佐々木和彦・沢田 健・沢田 輝・下岡和也・菅沼悠介・田村嘉之・中澤 努・矢鳥道子・山本啓司・和田 稷隆
監事：岩部良子・山本正司
事務局1名：澤木寿子
欠席役員：理事（9名）：尾上哲治・金丸龍夫・笠間友博・野口（神谷）奈々・澤 燦道・西 弘嗣・廣瀬 亘・松田博貴・道林克禎

・高野議長により理事会の成立要件の確認がなされた。本日の出席者が41名，成立要件は理事総数50名の過半数26名以上であることから，本理事会は成立することが確認された。議決は出席者の過半数21名以上である。
・本日の書記は小松原理事，下岡理事が指名された。
・前半の報告事項は高野議長により進行された。

報告事項

1. 執行理事会報告（亀高常務理事）
亀高常務理事から今年度第1回～第3回の執行理事会議事録から，以下の点について報告があった。
[第1回] 6/18に行われたJpGUの学協会長会議に山路会長が出席した。JABEE校の宣伝ポスターを全国の高校へ発送した。自然史学会連合・JpGUから科研費増額の要望書について賛同要請があり，賛同の旨回答した。学術大会での学生優秀発表賞の評価方法を修正し，「特筆すべき発表」に関するプレスリリースを廃止した。
[第2回] 地質学会のXの運営が産総研の大坪理事に交代した。地学オリンピックの問題作成者の推薦依頼があり，地質学会から2名を推薦した。
[第3回] 7/30に防災学術連携体主催の能登半島地震調査報告会があり，地質学会から産総

研の井上卓彦氏が発表した。第39回(2024)京都賞を地質学者ポール・F・ホフマン博士が受賞したことについて、磯崎理事へ地質学雑誌への紹介記事執筆を依頼するとともに、受賞者講演会についても地質学会として協力することを予定している。

2. 総務委員会(加藤猛士理事)

2024年7月末時点の会員動静について報告があった。加えて、4月理事会以降の逝去会員2名の報告があり、黙祷した。

3. 広報委員会(内尾理事)

学会webサイトのリニューアルについて、方向性と現状の報告があった。現在のwebサイトの内容を整理したサイトの構成案、表示イメージ(PC版、スマホ版)が示された。SNSへのリンクを表示し、日本語版ができ次第英語版を整備するとのこと。

4. 行事委員会(高嶋理事・山口理事)

→2024年山形大会、2025年熊本大会、2026年金沢大会について準備状況の報告があった。(高嶋理事)

→2024年山形大会：2024年9月8日(日)～10日(火)山形大学小白川キャンパス。市民講演会(9月8日13時～15時)・地質情報展(9月6日～8日)は山形テルサで実施。講演件数：口頭発表266件、ポスター発表232件、ジュニアセッション21件、緊急展示1件、合計520件(京都大会：535件)。シンポジウム1件、トピックセッション18件、ジェネラルセッション、ジュニアセッション、アウトリーチセッション。巡検：9月7日(土)プレ、9月11日(水)～12日(木)ポスト。8コースすべて実施予定。案内書は8コース中7コースが受理済み。

→2025年熊本大会：2025年9月14日(日)～16日(火)、熊本大学黒髪地区。市民講演会・地質情報展は熊本城ホールを予定。巡検：全9コース。

→2026年金沢大会：2026年9月12日(土)～14日(月・祝)、金沢大学角間キャンパス。斎藤眞理理事から、市民講演会、地質情報展の科研費申請については近年不採択が続いている。ぜひ他の助成金による予算獲得も考えるべきとの指摘があった。

・7/21に実施された第11回ショートコース(微化石)の実施報告があった。(山口理事)講師は新潟大学松岡篤会員、鳥根大学林広樹会員。講師の体調不良に伴い、一部は1週間延期して実施された。71名の参加があった。今後の予定については、9月以降にWGで相談する。

5. 地質学雑誌編集委員会(小宮理事)

地質学雑誌の投稿状況について、例年に比べて投稿が少ないとの報告があった。

6. Island Arc編集委員会(辻森理事)

Island Arcの投稿状況について、投稿が少ないとの報告があった。投稿システムが新しくなったが、便利になった一方で編集・査読側でやや混乱が起きている状況が報告された。

7. 地学教育委員会(岩井理事)

山形大会ジュニアセッションでは11校21件の発表が予定されているとの報告があった。今大会より予備審査のためのポスターPDFが提供されており、大会に参加しない理事の方にもぜひ審査にご協力をお願いしたい。

8. 地震火山地質子どもサマースクール(岩井理事)

・8月7-8日の2日間、三好ジオパーク(徳島)にて開催され、無事終了したとの報告があった。出席状況詳細：スタッフ26名(学会10、LOC16うち2名は看護師等)/協力者17名/参加者28(応募32、当選31、欠席3)(参加者内訳)東京、神奈川、長野、愛知、静岡、奈良、岡山、愛媛、兵庫、徳島から、高校生6人(高1が5、高3が1)、中学生11人(中1が5、中2が2、中3が4)、小学生11人(小5が6、小6が5)。(男子21、女子7)地元、三好市内の学校(6人=高校2、中学校2、小学校2)

・2025年度は御嶽山(南アルプスジオパーク)で開催予定、2026年度は三陸ジオパークを通じて気仙沼市が申請準備中とのこと。

9. 地質技術者教育委員会(加藤猛士理事)

学生のための地質系業界説明会の準備状況について報告があった。9/9に山形大会会場にて対面開催、9/13にオンラインでの開催の2種類がある。学生のエントリーが少ないためぜひ周知に協力いただきたい旨要望があった。

10. ジオパーク支援委員会(天野一男理事)

「大地と人の物語 地質学で読み解く伝承(仮)」の編集状況について報告があった。原稿メ切は9/30、3月上旬校了、4月出版予定。概ね順調に進行している。

11. ジェンダーダイバーシティ委員会(山口理事)

委員長の後任に天野敦子会員(産総研)が決定した。これに伴い、JpGUのジェンダーダイバーシティ担当も同会員に変更された。

12. 若手活動運営委員会(下岡理事)

・山形大会期間中の9/7夕方に山形テルサで交流会を開催する。

・10/26日帰りで巡検を行う。愛知県・岐阜県のジュラ-三畳系を観察する。9/27申込締切。

・2月にオンライン業界交流会を実施予定。

13 その他

矢島理事から、次のIGC(2028年)はカナダのカルガリーで開催されるとの情報提供があった。

後半の審議事項は野田副議長により進行された。

審議事項

1. 各賞選考規則、各賞選考委員会規則の変更提案(亀高理事)

各賞選考規則および各賞選考委員会規則の変更提案について説明があった。賛成多数で承認された。

2. 各賞選考委員会委員の承認(亀高理事)

各賞選考委員会委員について委員15名の紹介があった。委員リストに専門分野の情報も追加してはとの意見があったが、選考委員の氏名は委員長を除いて直近では公表しない方針である。また今回、専門性を考慮した理事からの委員選出に苦慮したが、現行規則では理事の互選による選出となっており、理事以外からの選出は不可である。星理事からは、理事以外からの委員選出について来年の選考から検討してはどうかとのコメントがあった。このほか中澤理事から、規則から役職指定に関する記述がなくなったので、より柔軟に委員を選出できるのではとのコメントがあった。賛成多数で承認された。

3. 地質学雑誌投稿編集出版規則改正案及び巡検案内書に関する細則案(杉田理事・小宮理事)

著者に故人が入っている場合の表記、および巡検案内書に関する改正と、巡検案内書に関する細則案について説明があった。中澤理事から、アウトリーチ巡検等の案内書では図中の文字に日本語併記が可能か、また著者が初出のデータを案内書に記載することを拒否できるかどうかの質問があり、杉田理事から、今回の改正案および新細則案で対応可能との回答があった。また、今回の細則は大枠を決めるものであって大会ごとに執筆要領が作られ、日本語併記や初出データの扱いもそこで明確に規定されることとなるとの回答があった。賛成多数で承認された。

4. 2025年熊本大会の巡検コースの提示と2026年金沢での実施の承認(高嶋理事)

・2025年熊本大会の巡検コースについて説明があった。星理事から、プレ巡検とポスト巡検の区分、最少催行人数、参加費について質問があった。高嶋理事から各コースの情報について説明があり、最少催行人数等は旅行会社の見積もり取得後に検討するとの回答があった。また当初2泊3日として計画されていた天草のコースは、参加者の利便性を考慮して日数を1泊2日に減らし、船舶の利用もない内容に変更された。賛成多数で承認された。

・2026年金沢大会について、2026年9月12日～14日に金沢大学で行うとの説明があった。賛成多数で承認された。

監事コメント

山本監事：各賞選考委員について、バランス良く選出されているのは良いが、実際の審査にあたっては委員と候補者の利益相反について十分注意してほしい。

岩部監事：学会webサイトのリニューアルについて、情報発信の点でも重要であるし、来年以降の選挙でも活用されることが想定される。地質学会に興味のある一般の方も利用しやすいものとなるよう、いろいろな方の意見を聞いて使いやすいサイトを目指してほしい。会員動静について、会員減少の対策として学会が行っている施策の効果や、大会時ほどの程度の入会があるか等、理事会でデータ

を共有して検討していただきたい。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長、副議長及び出席監事、理事は次に記名・捺印する。

2024年9月21日
一般社団法人日本地質学会
理事：議長 高野 修
理事：副議長 野田 篤
代表理事：会長 山路 敦
理事：副会長 杉田律子
理事：副会長 星 博幸
監事：山本正司
監事：岩部良子
理事：出席理事名（省略）

2024年度 第4回執行理事会議事録

日程：2024年9月21日（土）13:00-16:00
【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高正男、内野隆之、内尾（保坂）優子、尾上哲治、加藤 猛士、小宮剛、高嶋礼詩、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、

監事：岩部良子、山本正司（監事）

欠席：岩井雅夫、坂口有人、山口飛鳥、矢部 淳、大坪 誠、

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事17名の出席

*前回24-03議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

- ・2024年度「京都賞」受賞のPaul F. Hoffman 博士の紹介記事（特別寄稿）を磯崎会員に改めて執筆いただいた。査読後地質学雑誌へ掲載する。タイトル：先カンブリア時代を踏破する：2024年「京都賞」受賞者Paul F. Hoffman 博士の地質学的挑戦。また11/14開催の東京での受賞記念講演会（会場：東大駒場キャンパス）に対して、地質学会として協賛することとした。
- ・学術著作権協会より管理委託契約約款改定に向けた説明会があった。これまでの複製複製及び転載にかかる権利に加えて、新たにAI利用に係る権利委託が追加される。10月以降各権利者団体へ個別に委託可否に関する確認作業が予定されている。
- ・日本学術会議より、提言「未来の学術振興構想（2023年版）」に関するアンケート調査への協力依頼があり、回答した。
- ・日本神経科学学会から雇止めに関するアンケートの協力依頼があった。会員に向けてgeo-Flashで周知した。

2. 運営財政部会（加藤・細矢）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・（公財）山田科学振興財団2024年度研究援助（2/28締切）への地質学会推薦応募2件は不採択となった。

・（公財）中谷医工計測技術振興財団次世代理系人材育成プログラム（11/20締切）および科学教育振興助成募集（11/30締切）【→ニュース9月号、geo-flash掲載予定】

・石油技術協会から令和6年度秋季講演会（11/12、於東京大学 小柴ホール）への協賛依頼があり、承諾した。

・日本アイソトープ協会から第61回アイソトープ・放射線研究発表会（25/7/2-7/4、於日本科学未来館）への参画依頼があり、例年通り後援で承諾した。

<会員>

1. 今月の入会者（正会員学生7名）
学生会員（2年バック：1名、3年バック：6名）吉野剛志、大友迪人、倉本和佳、小泉櫻、桐山美咲子、柳澤響子、幸野 尊

2. 今月の退会者（2名）

正会員一般（1）森山健一

正会員シニア（1）西松満彦

3. 今月の逝去者 なし

4. 2024年8月末会員数

賛助：36、名誉：37、ジュニア会員：6、正会員：3146 [一般2012、シニア864、学生270] 合計3225（昨年比46）

<会計>

特になし

<その他>

・業務委員会の規則の有無について確認し、規則の存在を確認できない委員会については早急に規則を整備することを確認した。

・共有サーバの設置検討について、執行理事間でデータを共有できるよう、また後任者がデータを容易に引継げるよう、今後共有サーバの利用の検討を進めていく。

3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

1) 広報委員会（坂口）

執行理事会後、Webサイトの構成案を理事会MLに送付、確認予定。

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・山形大会参加者数728人（事前657、当日71）、うち学部生院生204人、シニア76人（注）ジュニアセッション参加者を除く（2023年京都大会780名）

・学生優秀発表賞審査結果取りまとめ&山形大会反省会を9/24に開催する。

・大会報告（ニュース11月号）にキャンセルされた講演及び追加講演の情報を載せる。

・いくつかの発表で不足していた学生優秀発表賞の審査員は確保することができた。

・巡検の安全のしおりに、スズメバチ対応など具体的な記述をした方が良いとの意見があった。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

なし

3) 国際交流委員会（辻森）

タイ地質学会・ロンドン地質学会とMOUの継続手続きを進める。

4) 地質標準化委員会（内野）

なし

5) 学術戦略WG（尾上）

特になし

6) ショートコースWG（山口）

今回のテーマを検討中。

5. 編集出版部会（小宮・辻森）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2024年9月20日現在）

・2024年投稿論文：39（昨年比-7）[内訳] 論説19（和文17、英文2）、報告8（和文6、英文2）、レター5（和文45）、ノート1（和文1）、フォト1（和文）、巡検案内書8
・査読中20、受理済み1、入稿・校正中3、130巻公開済み30件（370ページ）

2. Island Arc編集委員会（辻森）

・Wileyとオープンアクセス転換契約を締結している研究機関に所属する著者は、機関の費用負担でオープンアクセスとして論文を公表できる可能性がある。各所属機関のAPC支援事業担当者に確認し、活用してらうよう、Geo-flashで会員に周知する。

・新投稿・査読システム（REX）において、査読が2週間で強制終了させられることや、査読者がファイルを添付できないことが問題となっている。Wiley社には引き続き改善を求めていく。

3. 企画出版委員会（小宮）

なし

6. 社会貢献部会（矢部・岩井・坂口）

1) 地学教育委員会（岩井）

・山形大会ジュニアセッション審査結果を発表した。優秀発表賞1件（JP14）、奨励賞3件（JP11JP13JP19）。審査員数は理事13名。

2) 地質技術者教育委員会（加藤）

・地質系業界説明会の開催結果

企業・団体：52（対面35、オンライン38、資料掲載のみ1）

学生：対面 66名、延べ160訪問、2.4訪問/1企業団体

オンライン 12名、延べ72訪問、1.9訪問/1企業団体

・対面説明会は昼食時を含めた時間帯にしたが、参加した学生は想定より少なかった。セッションと時間が重複しているのので、例えば、若手の集いが開催される大会前日にも実施してはどうかとの意見があった。また当日参加（飛び入り）が可能であることを知らなかった学生が一定数いた模様。

・地質系若手人材動向調査：回答期限延長：10/18（金）まで、現在までの回答数12校

3) 生涯教育委員会（矢部）

なし

4) 地震火山地質子どもサマースクール（岩井）